

移・職・住 外国人と生きる

人材求めて①

実習生が窮地を救う

日東商事は現在、7人のベトナム女性と契約している。フードコートのごみ箱を掃除していたティン・ティ・ビッチ・フォンさん(24)は同社が初めて採用した技能実習生の1人で、2017年3月に来日した。必要な手数料・保証金の計約25万円は両親が借金し立ててくれた。平均給与が月約3万円のベトナムでは大金だ。手取り約15万円の

うち約10万円を任送りしている。

商業施設やホテルを清掃する日東商事は、雇用状況が改善し始めた14年ごろから深刻な人手不足に陥った。スタッフのシフトが回らず、本社の管理職が現場へ出る窮地に陥り、経営陣が実習生の受け入れを決めた。現場は当初「負担が増える」と消極的だった。

日本語などの講習を受けた後に現場へ。イオンモール高知の現場責任者の筒井照恵さん(53)は、実習生が来た当時を「日本語が分からず『きれいに』では伝わらないので1回ずつ手本を見せて覚えてもらった」と振り返る。日東商事側は本社でのミーティングの後、日本語を自習する時間を設けた。徐々に語学力が上がり、仕事を覚えた実習生は、社内の日本人スタッフから同じシフトで働きたいと指名されるまでに成長した。

翌日の午前10時半、市街地のビジネスホテルの一室でレ・ティ・ホン・ティンさん(28)が手際良くシーツ



開店前のフードコートで清掃の仕事を
するティン・ティ・ビッチ・フォンさん＝1月、高知市のイオンモール高知

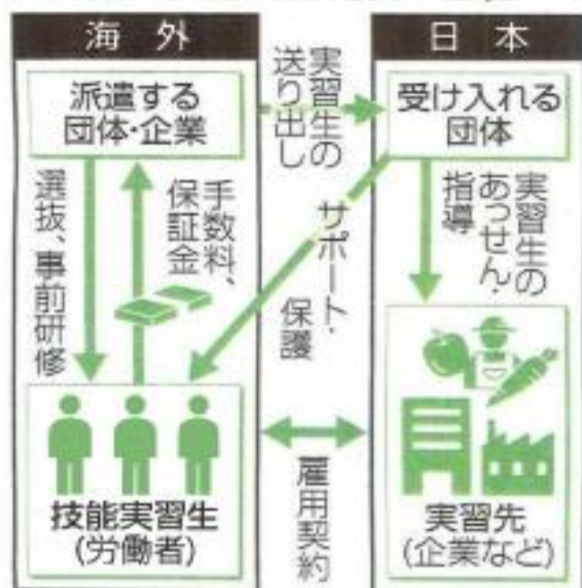
を交換していた。4～10歳の子ども4人がいるシングルマザー。「子どもは住み

慣れたベトナムで成長してほしい」と両親に預け来日し、仕送りを続けている。「ベトナムの給料では生活が厳しい。長く日本で働きたい」と願う。

日東商事の山崎真人社長(48)にとって想定外の事があった。来日直後は無理をさせないように1日8時間、週休2日でシフトを組んでいた。勉強の時間を確保する狙いもあったが、実習生全員から「もっと働いて稼ぎたい」と直訴された。希望者には、時間外手当付きの深夜の閉店作業などを法定内で多めに入れるようにしている。「コストは高つくが、会社には救世主。必要経費だ」

1月中旬の早朝、高知市郊外の商業施設「イオンモール高知」。開店前の店内は薄暗く普段のにぎわいはない。ベトナム人の女性4人が、日本人に交じって床やトイレを黙々と掃除していた。

外国人技能実習制度の仕組み



外国人技能実習制度

日本の企業などで外国人を受け入れ、働きながら習得した技術や知識を母国の発展に生かしてもらう目的の制度。1993年に創設された。技能実習生は製造業、建設業、農業、介護な

ど対象となる職種の実習先で、最長5年働くことができる。2018年10月末現在で約31万人がおり、国籍別に見るとベトナム、中国、フィリピンの順に多い。日本国内の労働力不足を背景に年々増え続けている。違法な時間外労働、賃金不払いといった問題も指摘されている。

政府の外国人材の新制度が4月、スタートする。数合わせの「労働力」ではなく、共に生きる「隣人」としてどう受け入れるのか。過去と現在、そして未来を見つめる。